

1. さて、イエスは、ヨハネからバプテスマを受けるために、ガリラヤからヨルダンにお着きになり、ヨハネのところに來られた。しかし、ヨハネはイエスにそうさせまいとして、言った。「私こそ、あなたからバプテスマを受けるはずなのに、あなたが、私のところにおいでになるのですか。」 (3:13-14)
 - a. 人々は何かに迫られたように罪を悔い改め、バプテスマを受けるためヨハネのもとにやってきました。神の恵みにより、人々は悔い改めることができただけでなく、悔い改めたいという思いを神から与えられたのです。私たちの人生には、罪から抜け出せなくなる時もありますが、神の恵みにより罪を悔い改める（考えを改め神に立ち返る）という行為に導かれるだけでなく、正しいことをしたいという強い思いが与えられる時もあります。
 - b. しかしイエスには悔い改めるべき罪がなかったので、イエスがバプテスマを受けたいと言われた時、ヨハネのように不思議に思うのは当然でしょう。ヨハネの方がイエスよりも年上で、この時点ではヨハネのミニストリーの方が広まっていた、当時ヨハネは公認の預言者であったのに対しイエスの存在はまだ知られていませんでした。けれどもヨハネは彼の方がイエスからバプテスマを受けるべきだと言ったのです。
 - c. イエスには罪を悔い改める必要もないしそう望む気持ちもなかったはずですが、イエスはどのようにお考えだったのでしょうか？ どうしてイエスはヨハネからバプテスマを受けたいと言われたのでしょうか？ イエスはヨハネのミニストリーから何かを得るためにヨハネのもとに來られたわけではありません。私たちが御霊によって生きる時、神は必ずしも私たちが満たされるため、何かを受けるために人との出会いを備えられているわけではありません。イエスがヨハネに会いに行かれたのもそのような目的ではありませんでした。
2. ところが、イエスは答えて言われた。「今はそうさせてもらいたい。このようにして、すべての正しいことを実行するのは、わたしたちにふさわしいのです。」そこで、ヨハネは承知した。 (3:15)
 - a. イエスはヨハネのバプテスマの場へ行かれる必要はなかったものの、イエスはヨハネに、これはすべての正しいことを実行するためだとお答えになりました。
 - b. イエスが正しいことの実行のためへりくだりお従いになるということは、イエスの生涯のテーマでもありました。
 - c. 正しいことを実行するためへりくだり従うということは、しばしば多くの犠牲を伴います。イエスの場合も、ヨハネからバプテスマを受ける姿を見られることで人々から「イエスはどんな罪を悔い改めているのだろう？」「ヨハネの方がイエスより優っているのではないか？」などと疑われ、イエスの立場が疑問視されるというリスクを伴ったはずですが、しかし正しいことを実行するためへりくだり従う時の代価はその報酬を上回ることはありません。
3. こうして、イエスはバプテスマを受けて、すぐに水から上がられた。すると、天が開け、神の御霊が鳩のように下って、自分の上に来られるのをご覧になった。また、天からこう告げる声が聞こえた。「これは、わたしの愛する子。私はこれを喜ぶ。」 (3:16-17)
 - a. イエスがへりくだりヨハネのバプテスマを受けられると、文字通り天が開け、聖霊が鳩のように下り、神がイエスを喜ばれる宣言をされた。
 - b. 正しいことの実行のためへりくだり従う時、私たちに對しても神にしか開けないドアが開かれるでしょう。
 - c. へりくだり従う、ということはイエスと同じようにヨルダン川に行って洗礼を受けることではありません。宗教的な行為により神の御手を動かそうとすることではなく、聖霊の流れに敏感になり、聖霊に自分を合わせていくということです。
 - d. 正しいことを実行するため聖霊の促しに謙虚に従う時、私たちの人生に神が働いてくださるのです。